

【基本的な方針】

有田市は、東西約10km、南北約5km、総面積36.92km²で中央部を流れる有田川が市を南北に二分している。市内の公共交通機関として、JRが3駅あり、そのうち特急列車が停車するのは鶴島駅のみである。全国的な少子高齢化と同様、当市においても交通弱者といわれる高齢者数が増加傾向にあり、今後も、高齢者のみの世帯や一人暮らしの世帯が増えてくるものと思われる。

こうした現状をふまえ、市民生活の中で買い物や通院などの交通手段として、利便性に富み、かつ低運賃で乗車できるバスの運行が、必要不可欠なものになっている。この地域公共交通総合運営計画は、安全で安心して利用できる公共交通機関の存続と、そのことにより、市の活性化を図っていくための計画とし、本市における交通施策を行政のみでなく、地域住民及び公共交通事業者等が一体となって総合的に推進していくものである。

【区域】

有田市全域

【計画期間】

平成20年
～平成23年

【目標】

- 交通空白地帯の解消
- 今後、交通事業者が自立した運営・運行が行えるような体制作り
- 高齢者等の交通弱者による交通事故をなくすため、マイカー無しでも快適に暮らせる公共交通基盤作り

【事業・実施主体】

●デマンドバス運行事業

バス交通の空白地域を解消するため、デマンド型バス運行とし、交通弱者に対する公共交通システムを構築するものである。糸井、吉原、鶴島、堀、初島を運行する路線は、13名の定員車両を使用し、主に吉崎、保田方面を運行する路線は、立席も含めて29名の定員車両を使用する。
・運行事業者:中紀バス株式会社
・運行形態:道路運送法第4条
・実施地域:有田市全域
・乗車料金:ひとり1乗車200円(中学生以上)
小学生・障害者100円 乳幼児:無料
回数券:11枚綴りを10枚料金で発行

(有田市・中紀バス㈱・有田市地域公共交通会議)

●公共交通の利用促進事業

・時刻表、ポスター等作成・配付、市庁報情報掲載
・アンケート調査等による情報収集調査と分析
・低廉なバス運賃、割引回数券の発売等
などの活動を行い利用を促進することにより、持続可能な事業の構築を図る。

(有田市・中紀バス㈱・有田市地域公共交通会議)

●車両購入補助事業

ノンステップバスの購入等により、老人、障害者などに配慮した交通施設とする。

(有田市・中紀バス㈱・有田市地域公共交通会議)

平成20年度事業計画概要

事業概要	実行主体	評価事項
●デマンドバス実証運行	有田市・中紀バス㈱・有田市地域公共交通会議	・公共交通空白地域の解消 ・病院、学校等へのアクセス向上等住民の生活の質的向上 ・コミュニティバス等の利用者の増加 ・住民の公共交通の利便性等に対する満足度の向上
●公共交通の利用促進	有田市・中紀バス㈱・有田市地域公共交通会議	
●公共交通サービスに関する情報提供	有田市・中紀バス㈱・有田市地域公共交通会議	

平成20年度事業実施概要

検討の経緯

■20年6月：第1回協議会

- ・平成20年度事業計画及び平成20年度予算について
- ・監査委員の選出について
- ・事業実施状況について（報告）

■20年11月：第2回協議会

- ・利用状況及び要望等について（報告）
- ・デマンド地区に対するアンケート調査結果について
- ・路線変更及び新規路線開設の承認について

■21年1月：第3回協議会（予定）

- ・事後評価について

■21年3月：第4回協議会（予定）

- ・H20年度事業全体の実施結果と総括について
- ・H21年度事業計画及び予算について

【実施状況・実施主体】

●デマンドバス実証運行

5月：
実証運行開始



H20年12月までの事業実施状況

●公共交通の利用促進

- 4月：時刻表・ポスターの作成及び配布
- 5月：バス停標識及び時刻表示の改善
割引回数券の発売
- 6月：デマンド地区におけるアンケート調査

●情報提供

- 5月：市内報誌及びHPにおいて利用方法等のPR
- 6月：利用方法周知及び認知度調査（デマンド地区）

【実施結果・成果等】

・輸送人員、収支率

- | | | |
|-----|--------|-------|
| 5月 | 3056人 | 44.5% |
| 6月 | 2848人 | 42.1% |
| 7月 | 3074人 | 45.5% |
| 8月 | 2965人 | 43.8% |
| 9月 | 3098人 | 46.0% |
| 10月 | 3085人 | 51.7% |
| 11月 | 3065人 | 45.4% |
| 12月 | 2941人 | 44.0% |
| 合計 | 24523人 | 45.4% |



【評価 今後の方針等】

- ・公共交通空白地域は解消（初島、岸、貧島、吉原、糸穂地域）
- ・市域全住民の公共交通・病院・商業施設へのアクセス向上
- ・更なる収支率向上に向け今後利用促進策を検討
- ・運賃収入以外で広告収入等の新たな財源確保の検討

- ・回数券については、利用者に大変好評であり、売れ行きも好調であるため引き続きサービスを継続
- ・バス停標識については、適切な管理を行い引き続き現状を維持
- ・デマンド地区においては、各地域によって状況や要望が異なるため個別に検証しそれぞれに応じた今後の取組を検討

- ・デマンドバスの認知度は高いものの、その利用方法については未だ知らない方が多く引き続き周知活動が必要
- ・意見を踏まえ、路線及びダイヤの改正時に必要な見直しを実施

上記のとおり法定協議会を適切に開催しながら事業を試行的に実施する中で、問題点の把握・検証、見直しの検討、財源の検討を行うなど、事業の本格実施のための環境整備に向けての検討を行ってきたところである。今年度の事業実施の状況や結果及び利用者からの要望等を踏まえ、路線とダイヤの変更や広告収入等の新たな財源確保などの改善を図りながら来年度の事業を実施していく。